大阪・夢洲地区特定観光施設設置運営事業環境影響評価方法書への意見

5月2日から縦覧に供された本事業の環境影響評価（以下、アセスと略す）方法書を読んだが、全体として抽象的で曖昧な記述が多く、具体性に欠ける内容になっている。方法書に本事業の「想定工事開始は2023年度春～夏頃」と記載されており、スケジュール優先のIRアセスでないかと疑ってしまう。大阪湾の人工島・夢洲のまちづくりの今後を左右するIRアセスであり、方法書の再提出を含め抜本的な見直しを求めたい。環境の保全及び創造の見地から、以下に抜本的な見直しの理由、主な意見を記しておく。

1. 方法書の最大の問題点は、夢洲2区で実施されている大阪・関西万博アセスをまったく無視していることである。IR予定地の夢洲3区は、2区などの万博会場と隣接しており、先行する万博アセスの「成果」を踏まえるのは当然ではないか。万博アセス準備書に対する大阪市長意見について、本事業アセスでも精査して、方法書を練り直すことを求める。
2. IR事業者による予定地のボーリング調査などが実施され、大阪市が土地対策に公費負担することが問題になっている。事業者による先行調査の結果は、方法書に明記されていない。事業者と大阪府・市による「基本協定書」13条の2に記載の事業者による土地課題対策についても、方法書に明記されていない。先行調査ないし実施予定の土地課題対策について、方法書にきちんと明記すべきである。
3. 方法書16ページに「SDGsの達成に貢献するサスティナブルなIRをめざす」と書かれている。たった2行の指摘であるが、重要な指摘にしては問題が多い。SDGs達成を掲げるなら、評価する指標や方法を明記すべきである。それがないと、言葉だけになってしまう。サスティナブルなIRというが、収益の8割はカジノによるもので、持続可能なのか疑問である。カジノ＝ギャンブルはSDGsと相容れないのでないか。
4. 方法書では工事計画やアクセスなどで、万博やインフラ工事については調整するなどと書かれているが、夢洲4区で操業しているコンテナターミナルを中心とした物流機能については、まったく触れられていない。夢洲は大阪港最大のコンテナ基地であり、大阪経済を物流面から支えている。夢洲だけでなく、舞洲・咲洲も渋滞が問題になっている。夢洲4区のコンテナターミナルなどを含めた複合的なアセスが欠かせない。方法書にきちんと明記すべきである。
5. 方法書全体の半分近くを占める予定区域の概況及び周囲の概況は、総花的で統計資料などの羅列に終わっている。夢洲3区についても、埋立履歴などを明記して環境配慮を記すべきである。58 ページの生物多様性ホットスポットの図に注目したい。夢洲の貴重な自然環境を保全するために、市長意見を継承したアセスを求めたい。

（2022年6月11日）